

はじめに

日本では、進展する高齢化の中、地域包括ケアシステムを基盤に、病院から暮らしの場へ、生活を重視した地域完結型の医療へと、在宅ケアが推進されています。

2022（令和4）年度の看護基礎教育カリキュラム改正では、「在宅看護論」が「地域・在宅看護論」へ名称変更されました。看護職には、人々の生活を支える看護特有の視点を前提に、予防から医療ケア、療養生活支援などに至るまで看護サービスを提供するとともに、地域包括ケアシステムの一員として、多岐にわたる役割がますます期待されています。

このような背景から、本書は、生活モデルかつ地域完結型を見据えた、次世代の看護職の育成に役立てられるよう、地域・在宅看護実践ならではの技術に焦点を当てたものとなっています。

第2版では、時代の動向を見据え、次の点をさらに充実させました。

- ・ 1～4章では、自立支援やリスクマネジメントを目的とした地域・在宅看護実践ならではの看護技術を取り上げています。
- ・ 5章では、これからの看護に欠かせない健康危機管理（感染症・災害対策）における、在宅療養者やその家族への対応、看護職自身の安全確保、事業継続のための方略、健康危機発生時に看護職に期待される役割を盛り込みました。
- ・ 6章では、地域の生活の中で看護を必要とする多様な事例を紹介し、支援の実際をイメージしやすいようにしています。
- ・ 7章では、学習の総まとめができるよう演習の例を紹介しました。

さらに、将来の看護実践への視野を広げる手掛かりとしてのコラム、ナーシング・グラフィカシリーズ他巻へのリンクやARを掲載していますので、授業はもちろん、自己学習や実習でも大いに活用してください。

地域・在宅看護論を学ぶ看護学生や、地域で生活・療養する方々への支援に携わる看護職の方々が、社会や時代の変化に柔軟に対応しながら、多様な看護の場において、看護職ならではの役割や機能を発揮できる一助となれば幸いです。

編者一同